

2022年9月27日

報道関係各位

三菱地所株式会社
東宝株式会社
公益財団法人出光美術館

「国際ビル」・「帝劇ビル」共同建替計画着手

～帝国劇場・出光美術館の歴史と伝統を継承し、未来へ～

三菱地所株式会社（以下、三菱地所）、東宝株式会社（以下、東宝）及び公益財団法人出光美術館（以下、出光美術館）は、東京都千代田区丸の内三丁目に位置する三菱地所所有の「国際ビル」と、東宝及び出光美術館所有の「帝劇ビル」について、共同で一体的に建替えることを決定しましたのでお知らせいたします。建替え後の建物内において、帝国劇場・出光美術館の再開を予定しています。

国際ビル・帝劇ビルは、風格ある緑と水の景観が広がる皇居外苑のお濠と、ウォークアブルな賑わい溢れる丸の内仲通りの双方に面しており、有楽町線をはじめ地下鉄2駅4路線が交差し、JR有楽町駅にも近接する抜群の交通利便性を有する立地において、1966年の竣工以来、品格あるビジネス拠点として機能して参りました。

帝劇ビルにある帝国劇場は、1911年に近代日本の文化芸術のフラッグシップとして開設された後、1966年に建替え竣工した2代目であり、日本を代表する演劇・ミュージカルの聖地として、長年の間、多くの観劇ファン・俳優から愛されて参りました。

同じく帝劇ビルにある出光美術館は、出光興産の創業者である出光佐三が70余年の歳月をかけて蒐集した美術品を展示・公開するため開館され、現在では国宝2件・重要文化財57件を含む約1万件のコレクションを有する美術館として、国内外に知られています。文化財の保存から調査研究、教育普及や啓蒙にいたる意欲的な活動をもって、文化財保存・研究・普及啓発にも寄与して参りました。

国際ビル・帝劇ビルの竣工から約56年が経過し、防災対応機能の強化、ポストコロナ時代の新しい働き方をはじめとするテナントニーズの高度化や脱炭素社会の実現に向けた社会的要請への対応強化等、機能更新をはかると共に、有楽町エリアの上位計画で定められている魅力あるまちづくりに貢献すべく、三菱地所・東宝・出光美術館の3者で共同し一体的に建替えることを決定いたしました。本計画では、これまで培い愛されてきた歴史と伝統を継承しながら、今後連続的な再開が予定されている有楽町エリアにおける文化・芸術の拠点としてさらに発展させ、感性豊かに働き集うことが出来る魅力あるまちづくりを通じて、東京の国際競争力の向上にも貢献して参ります。

建替計画の具体的な内容につきましては、今後、関係各位のご協力を得ながら検討を進めて参ります。尚、今後の具体的な建替スケジュールは未定ですが、両ビルは2025年を目途に閉館する予定です。

■「国際ビル」概要

- ① ビル名称：国際ビル
- ② 所在地：東京都千代田区丸の内三丁目1番1号他
- ③ 構造規模：鉄骨鉄筋コンクリート造
地下6階 地上9階 塔屋3階建
- ④ 敷地面積：5,623.30 m² (1,701.05 坪)
- ⑤ 延床面積：76,918.25 m² (23,267.77 坪)
- ⑥ 竣工年月：1966年9月
- ⑦ 所有者：三菱地所株式会社・一般社団法人日本倶楽部



▲国際ビル

■「帝劇ビル」概要

- ① ビル名称：帝劇ビル
- ② 所在地：東京都千代田区丸の内三丁目1番1号
- ③ 構造規模：鉄骨鉄筋コンクリート造
地下6階 地上9階 塔屋3階建
- ④ 敷地面積：3,825.05 m² (1,157.08 坪)
- ⑤ 延床面積：39,419.80 m² (11,924.49 坪)
- ⑥ 竣工年月：1966年9月
- ⑦ 所有者：東宝株式会社・公益財団法人出光美術館



▲帝劇ビル

■各社コメント

【東宝】

当社発祥の地、日比谷から程近く、対面には美しいお濠と皇居、三方はビジネスセンターの丸の内
に囲まれた、奇跡ともいえる絶好のロケーションに位置する帝劇ビルには、世界に誇る設備と格調を
有する2代目・帝国劇場が所在します。帝国劇場は、1911年の開場以来綿々と続く進取の精神と舞台
への熱き想いを今後も真摯に受け継ぎながら、ここに新たな世紀に向け踏み出そうとしています。今
後、関係各位のご協力を得ながら再整備に向けた検討を進めて参ります。

【出光美術館】

当館は、出光興産の創業者である出光佐三が創設し、1966年に開館した東洋古美術の優品ほかを展
示する美術館です。約1万件の所蔵品（国宝2件、重要文化財57件を含む）を保有する国内屈指の私
立美術館として知られてきました。今回の再整備にあたっては、開館以来、ご来館いただいた皆様と
ともに培った当館らしさは継承しつつも、心潤う都会のオアシスへと、新たな進化を目指します。芸
術・文化を取り巻く社会動向が大きな転換期を迎えている今。未来の変化にもしなやかに応じる事
のできる美術館として、関係各位とも協力しながら本計画に取り組んで参る所存です。

【三菱地所】

当社は2020年以降のまちづくりを「丸の内NEXTステージ」※¹と位置づけ、その重点エリアとし
て有楽町の再構築に取り組んで参りました。街をつくる主役は「人」であるという思いから、多様な
人が輝ける舞台を作るためのプロジェクト「有楽町Micro STARS マイクロ スターズ デイバロップメント Dev.」※²の始動を皮切
りに、ソフトからハードへのまちづくりを進め、2021年7月には有楽町エリア第1弾建替え計画となる
「有楽町ビル」・「新有楽町ビル」の建替え着手を発表しております※³。この度、伝統と風格あるこ
の地において、多くの人々から親しまれ日本の文化芸術を牽引されてきた東宝様・出光美術館様と共
に、新たな歴史を紡ぐ「国際ビル」・「帝劇ビル」建替えに着手できることを大変光栄に思います。
多様な人が集い、未来を作る舞台となる重要な拠点として、本計画を推進して参ります。

【参考】

※1 丸の内 NEXT ステージ：

三菱地所株式会社は、大手町・丸の内・有楽町エリアにおける 2020 年以降のまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ」と位置付け、イノベーション創発とデジタル基盤強化を通じ、個人のクオリティオブライフ向上と社会的課題の発見・解決を生み出すまちづくりを推進しています。

https://www.mec.co.jp/news/archives/mec200124_marunouchinext.pdf

※2 有楽町エリア再構築に向けた先導プロジェクト 有楽町「Micro STARs Dev.」始動：

https://www.mec.co.jp/news/archives/mec191202_msd.pdf

※3 有楽町エリア再構築本格始動「有楽町ビル」・「新有楽町ビル」建て替え計画着手：

https://www.mec.co.jp/news/archives/mec210728_yurakuchobuilding.pdf

■位置図



▲広域図



▲計画地周辺

以上